

(7) チェンマイ在住日本人高齢者のメンタルヘルスに関する調査

川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科 依田健志

高齢者及び退職者の国境を超える移動は国際退職移住と呼ばれる。日本人高齢移住者には、マレーシア、タイ等東南アジアの人気が高い。チェンマイ周辺に移住する60歳以上の邦人数は増加しており、在留邦人数全体の過去5年間の伸び率も214.4%と急増している。退職後移住の期待や憧れが喧伝される一方、海外生活は文化、言語、習慣等が異なるため、心身共に大きなストレスを抱きやすい。そこでチェンマイ在住高齢移住者のメンタルヘルスに関する自記式質問票調査を実施した。調査項目は性別、年齢、家族構成、滞在期間、年収、現病歴等の各項目と、メンタルヘルスに関してはGHQ-28日本語版を、QOLに関してはEQ-5D-3L日本語版を用いた。

有効回答数は98であった（回収率90.4%）。回答者の平均年齢は 69.5 ± 5.9 歳であった。現病歴ありと回答した人は67名であった。QOL 効用値の平均値は 0.918 ± 0.140 であった。GHQ スコア平均値は現病歴ありのものが「なし」に比べ有意に高く、QOL 効用値は有意に低かった。このことから、一度疾病に罹患すると、生活環境や文化の違いから、抑うつやQOL 低下になりやすいことが示唆された。今後更に精査し予防的観点から運動介入等を考慮していく必要がある。